

令和5年度 RKC調理製菓専門学校・学校関係者評価報告書

開催日時：令和6年4月15日（月）17：00～18：15

開催場所：RKC調理製菓専門学校応接室

出席委員：松岡貞弘委員・畑山稜委員・梅原一道委員・大家賢三委員

学校側出席者：島村昌利学校長・小笠原知世教務部長・前田倫子事務長（記録）

<議事>

小笠原教務部長が開会を宣するとともに、出席委員及び学校側出席者の紹介を行った。まず議事に先立ち学校長が挨拶に立ち、出席委員に謝意を伝えるとともに、本日の会では忌憚のないご意見をいただき、そのご意見をいかしてより良い施設となるよう努力を重ねていきたいと挨拶した。

次いで小笠原教務部長が、令和5年度についてほぼ予定通りのカリキュラムで修了できたこと、また就職希望者についてはアルバイト・パートも含めてほぼ就業がかなったことを報告したのち、「自己点検・評価報告書」をもとに、本校の教育目標や令和5年度に定めた目標や計画について説明、報告を行った。

教育目標について教務部長は、本校の教育目標は社会に有用な職業人を輩出することであり就職率の高さを維持しているが、一方で離職率も高い。この部分をどう減少させていくかが課題と報告した。また「本年度に定めた目標及び計画」に関連した事項として、製菓衛生師国家試験の合格率が前年度80%を上回ったこと、また近年増加していた退学者は1名に留まったことを報告した。

次に「評価項目の達成状況及び取組状況」の説明・報告を行った。

(1) 教育理念、目的など

教育理念等については全生徒に配布する「学校生活の心得」において周知を図っている。先日行った新入生に対するオリエンテーションでは、（高校等の生徒手帳に相当する）「学校生活の心得」を使用して、細かく伝えた。職業人となるための心構え等もことある毎に伝えるように努めている。

(2) 学校（施設）の運営、管理

組織体制整備・効率化については小規模校であるので効率性にはこだわらず、都度職員会議等を行って情報共有を図る等している。外部（兼任）教員が担当する

授業もあるが格別な問題はなく、こちらもうまく情報共有ができていていると感じている。

(3) 教育活動

項目として問われている部分については「3」もしくは「4」で、特別な問題点はないと感じている。

課程の編成、実施方針等の策定については学外の兼任教員が多いため都度意見を取り入れることが難しい部分がある。就職指導については「指導部」のような組織的なものではなく、ほぼ個別に対応をしている。入学の目的として「就職」としない生徒もいる。そういった生徒にも目配りをしながら、就職を希望する生徒の要望を受け止め、事業所とのマッチングに努めている。

(4) 教育環境

この項目では施設設備が問われている。必要な設備は整っており、その設備に関しても業者による定期的な点検を定期的にも実施している。火を使用する施設でもあるので、設備点検と合わせて防火・消防訓練等も実施している。

(5) 学生支援

本校はクラス制をとっており、担任・副担任を置いている。生徒からの相談は担任・副担任が中心となって受けている。10代から60代までと生徒の年齢層が広いので、生徒たちは自分たちと近い年齢の教員にうまく相談をしているようだ。また生徒と教員の距離が近く、様々な相談ができる、そんな雰囲気がある。

奨学金は学校独自のものはないが、公的な奨学金を生徒が卒業まで受ける事ができるように学業の状況等に注意を払っている。

(6) 学生募集

学生募集について納付金等もすべて内容を生徒・保護者等に伝えている。本校の特長でもある幅広い年齢の「生徒」にうまく届く広報とは何か、非常に悩ましいところ。旧態依然とした広報活動では若い世代には届かなくなっていると感じる。常に課題ととらえている。

(7) 財務

財政基盤確保への取組の必要性は強く感じているが、18歳人口の減少のみならず

県人口も大きく減少するなど年々その環境が厳しくなっている。効果的な取り組みに早急に着手する必要性を感じている。

(8) 法令順守

個人情報保護等、体制は整っている。各人の意識に若干の課題はあるか。学校として必要な申請及び届出は適切に行っている。

(9) 社会貢献

年2回、ボランティア団体に協力し、移動献血を本校で実施、多くの生徒の献血に協力している。その他の地域のイベントへの参加も奨励している。

<小笠原教務部長>

令和5年度の「自己点検・評価報告書」の内容を紹介させていただいた。この報告書へのご意見、また本校へのご意見、要望等があればお示しいただきたい。

<畑山委員>

課題は生徒数の増加と就職率の向上かと思う。毎年、就職活動が遅れる生徒がいるようだが、仕事をするとはどういうことなのか。一日をどう過ごすのか、就業のイメージが沸かない生徒もいるのでは。特に3月に高校を卒業したばかりの生徒には特に、就業のイメージが沸くようなサポートが必要なのではないだろうか。

<大家委員>

昨年度50周年を迎えたとのことだが、HPにはそういった紹介はなかった。たとえば教育の理念や学校の沿革等をHPで取り上げて良いのではないか。保護者の代表として委員を拝命したが、こどもはこの学校で、幅広い年齢層の中で学べてことが良かったと言っている。同じ年代で固まるのではなく、若い人は年齢の高い人を頼り、頼られたことをうれしく思って対応する。グループとして良いまとまりだと感じたそう。いろいろなバックグラウンドを持つ人が、1年間ひとつの教室でともに過ごす事は意義があると思う。よいところで学ばせもらったと思う。

<島村校長>

年齢層の広さは本校の特長。そういったご意見をいただいた事は大変うれしく感じる。

<梅原委員>

生徒数の増加を図るための方策だが、県も今、YouTube を取り入れている。若い世代はテレビを見ない。SNS の情報が彼らの行動に大きな影響力を持っていると感じる。そんな状況であるので、YouTube での展開を考えるのも良いと思う。校外学習はどれくらいの期間で実施されているのかを知りたい。

<小笠原教務部長>

校外実習は1年間に30時間、5日間を設定している。現場を知る機会、校外実習を通して仕事を確認する、将来を描く…そんな期間と考えている。

<梅原委員>

生徒は体験してどんな仕事なのかを知る。経験した中から就業先を選ぶことが多いと思う。できればそんな複数回あればとも思うが、体験する回数が増えれば、定着率の向上にもつながるのではないだろうか。

<小笠原教務部長>

一年制であり、限られたカリキュラムの中では現状複数回は難しい。ただ県外の事業者の中には、就職前に繁忙期の業務を体験してみたいとの声掛けもある。そういった機会を活かす生徒もいる。

<松岡委員>

渡しも、幅広い年齢層の人たちと学校でともに学ぶのは良いことと感じる。この特徴をもっと前面に出していくべきとも思う。就業して最初にコミュニケーションでつまづくケースが多い。異年齢の同僚等とどんな話をして良いのかわからない、そんな傾向がある。この学校では1年間を異年齢の中で過ごす、それは強みだと思う。

<島村学校長>

令和5年度は60代は1名だったが、50代もいた。令和6年度は16歳から68歳までが学んでいる。学び直しでの入学を希望する人が増えているようだ。

<大家委員>

1年間の授業を振り返ってみてのこどもからの意見をひとつ。基本となる出汁やソースの作り方などは、繰り返して学びたかったとのこと。カリキュラムもあり、時間の制限もある中で難しいかもしれないが…。

<小笠原教務部長>

基本を繰り返し学ぶことは大切なことであるので、検討してみたい。
意見交換のあと、本委員会の議事の終了を小笠原教務部長が宣した。

島村学校長が議事進行への協力等への謝辞を述べ、「令和5年度 R K C調理製菓
専門学校 学校関係者評価委員会」は閉会した。

(記録：前田)